

# 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

## ふるさとの家、改修に着手 運営・管理体制が課題に

一色小学校区地域再生協議会・古民家活用部会（井上勝夫部会長）は近く、一色地区にあるふるさとの家（写真）の改修工事に着手する。ふるさとの家は明治 20 年頃建築された古民家として価値が高いものの、老朽化が著しく、利用も減っている。同部会では、年内完成をめどにトイレや給排水設備の改修・更新工事を行い、町北部の地域交流施設として再生させたい考えだ。このため、改修工事と並行して施設の運営・管理、需要開拓の検討もスタートさせた。

ふるさとの家は二宮町教育委員会の生涯学習施設として位置づけられていたが、条例廃止により現在は町所有の普通財産に移行した。再生協議会はこれによって柔軟な運営・管理が可能になったため、町との間で使用貸借契約を結び、地域再生に向けた拠点施設としての活用を目指している。

このほど固まった改修工事は 5 月の部会発足以来検討してきたもので、工事内容は屋外仮設・室内トイレ、和室・縁側改修、浄化槽設置、外回りの樹木剪定など。中でも、利用者からの要望が強いトイレ関係の更新に力点を置いている。現在、工事発注の詰めに入っており、今月中に工事を開始し、12 月末に完成させる。費用は 400 万円前後になる見通し。

ただ、ふるさとの家の再活用を軌道に乗せるには、利用者の拡大と運営・管理体制の確立が大前提になると見ており、工事着手に合わせて運営・利活用体制の検討を進めている。すでに平成 26、27 年度の利用者に対してアンケート調査を行ったところ、場所が分かりづらい、駐車場が不便、トイレが使いづらいなど多くの課題が指摘された。古民家活用部会では、改修工事が終了する年明けから見学会など開いて PR していく。



## 第 2 回本部会議、28 年度事業計画を報告

再生協議会は 9 月末、第 2 回本部会議を開き、全 6 事業部会が今年度の計画を説明した。本部会議は全役員と事業部会長で構成し、重要事項を審議・決定する場。再生協議会発足から 4 カ月を経て各部会の計画が固まったことから、それぞれの状況を突き合わせた。

それによると、一色小山百合を一般公開した友情の山部会を除く 5 部会が年度後半に活動

の重点を置いており、文化イベント振興、県公社部会は 10 月後半の「秋の音楽スペシャルウィーク」に最大の山場を設定している。来年度以後の新事業テーマの検討に入っている地域課題検討部会では、近くテーマ案を取りまとめ、年内にも事前調査などに入りたいとしている。同時に集約した 28 年度の予算執行見込み額は 1000 万円弱に達した。再生協議会では、年内にさらに本部会議、部会長会議を開き、今年度後半の詰めと 29 年度の事業計画、予算案固めを行う予定である。

10 月末開催の「音楽スペシャルウィーク」に向け、大規模な広報 PR 作戦が進行中だ。神奈川フィルなどが出演する「一色小で音楽祭り」(30 日、一色小体育館)では、一色小学校区全域にポスターを全戸配布。広報板掲示では、県公社部会の「やまゆり里山音楽祭」のポスターとセットで町内中に貼り出された。

## 音楽ウィーク・大キャンペーン

スペシャルウィークで取り上げているのは、文化イベント振興部会の音楽祭りと、県公社部会が 22 日(土)から町内 4 カ所で展開する音楽祭・シンポジウム。再生協議会の広報 PR はこれらを一体として取り上げ、ポスターは全町内の家庭回覧ルートでも配布された。掲示板には回覧用よりひと回り大きい A3 版サイズを採用、すでにそれぞれ約 50 枚が貼られた。

このほか、二宮町の協力により、駅改札、ラディアン、温水プール、小中学校など町施設にも掲示され、同種のイベントの中でも目立つ存在になっている。10-11 月は町内でも多くの催事・イベントが計画されている。今回の広報キャンペーンが、集客や動員にどのような影響を及ぼすのか注目される。

## 友情の山で樹木間伐を検討

再生協議会・友情の山部会(岡村昭寿部会長)は一色小裏の友情の山で間伐を行う準備を始めた。友情の山では樹木が伸び放題になっており、希少価値の高い山百合群生を保護し、里山の機能を保持するためにも樹木の間伐が必要とされている。一色小(町教育委員会)、PTA などと具体化に向けた話し合いを行い、10 月中にも計画を決める。

友情の山の間伐は、今夏の山百合一般公開の前後から検討課題になっていた。神奈川県山百合専門家からは、百合の保護・育成のためには日照が少なすぎる場所の枝払いや剪定、伐採を行った方が良いとの指摘があった。雑木が伸び放題になって、周辺宅地に張り出すなどの問題も起きている。また子供たちが走り回ったり、学校の菜園や梅林なども配置されているため、住宅街の真ん中にある里山らしい環境の整備が望まれている。

同部会では外来種の棕櫚(しゅろ)やイヌシデ、クヌギなどを中心に間伐、伐採の候補樹木の選定に入っている。間伐、伐採には切った後の樹木処理作業などが伴うため、手を付ける樹木の本数、規模だけでなく、子供たちの遊びや授業への影響などを含めて関係者との話し合いを行う。こうした検討を経て 10 月末には最終方針を決め、28 年度中には作業を終えたい考えだ。